

合計特殊出生率
(1人の女性が一生に産む子どもの平均数)
【現在】1.36
【目標】平成32年 1.60、平成42年 1.80
平成52年 2.07 (人口置換水準)

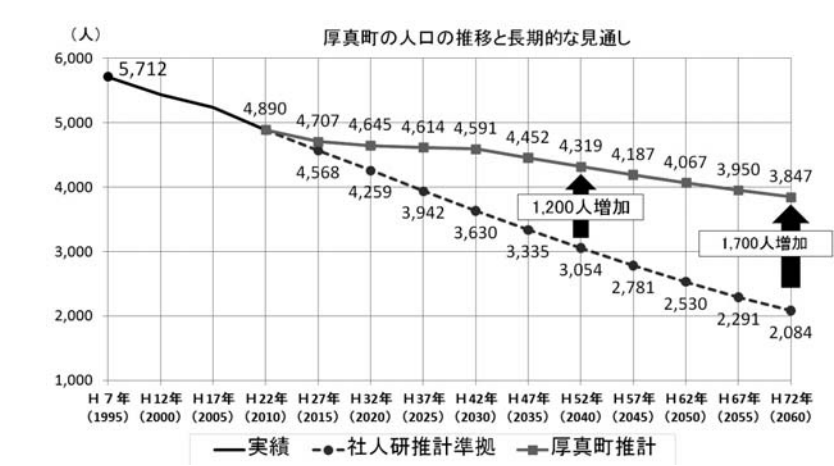
純移動
(転入と転出の差、社会増減)
【目標】年間30人の転入者増

人口の展望
平成52年 4,300人(社人研推計と比較1,200人増)
平成72年 3,800人(社人研推計と比較1,700人増)

人口減少の負のスパイラルを断ち切る

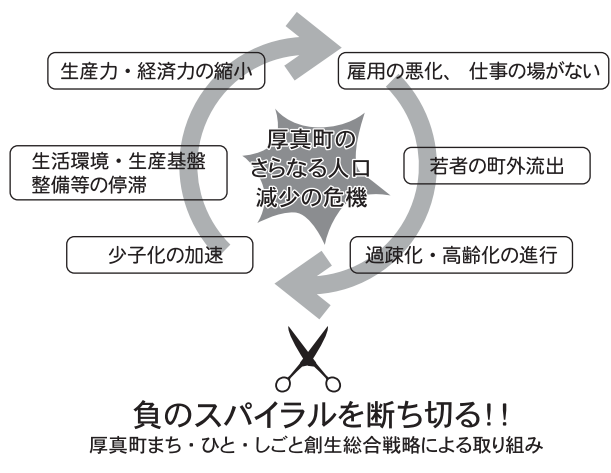
厚真町は、昭和33年をピークに人口減少が続いていて、それによる経済の縮小や若者の流出が地域の活力低下を招き、それがさらに地域経済の縮小を招くという負のスパイラルに陥る危機を迎えています。

町では、この負のスパイラルを断ち切るため、長期ビジョンを踏まえ策定した「厚真町まち・ひと・しごと創生



すべての住民が幸せを実感できるまちの実現へ

総合戦略では、これまでの「大いなる田園の町」というテーマを継承しつつ、住民が安心していきいきと暮らし続け、町外から絶えず人が訪れ、まちの魅力に引かれて多くの人が定住し、すべての住民が幸せを実感できるまちの実現に向けた取り組みを展開します。



総合戦略で定めた目標の達成に向け、関係機関・団体をはじめ、すべての町民の皆さんと認識を共有し、総力を挙げて全力で取り組んでいきます。

あつまる つながる まとまる
大いなる田園の町 あつま

あつまる ▷ 移住・定住の促進、交流人口の増加

つながる ▷ 第1次・第2次・第3次産業の連携、成長産業化、雇用の創出

まとまる ▷ 人と人とのふれあい、地域の絆、地域コミュニティの維持

人口の将来展望

人口の推移には、「自然増減(出生と死亡)」と「社会増減(転入と転出)」という要素があります。人口減少への対応は、その2つの要素に対する取り組みが求められます。

まず1つは、出生率を向上させることにより人口減少に歯止めをかけ、将来の人口構造そのものを変えることです。もう1つは、出生率向上による効果が始まるまでの数十年の間に、転出の抑制と転入者の増加に向け取り組みことです。

この2つの取り組みを同時並行的に進めることにより、町が将来目指すべき平成72年(45年後)の人口は、社人研の推計より1,700人多い3,800人と展望します。



50年後のあつまの未来図

幸せあふれる小さなまちの試み

人口減少問題への挑戦

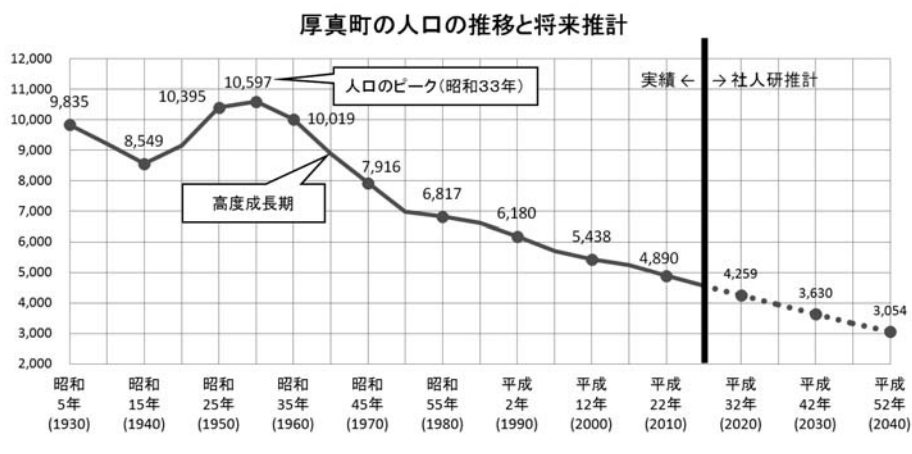
日本が世界に先駆けて人口減少・超高齢化社会を迎える中、国は、国と地方が総力を挙げて、活力ある日本社会の維持や地方からの日本の創生を目指していくため、「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。

厚真町では、昨年12月に人口減少による課題解決に向け、宮坂町長を議長とする「人口減少問題対策会議」を設置しました。また、幅広く町民の皆さんや産・官・学・金の各業界の意見を取り入れるため、厚真町まちづくり委員会(寺坂文秀委員長、委員16人、アドバイザー2人、オブザーバー1人)で協議を重ね、9月にパブリックコメントを実施し、平成27年10月28日に「厚真町まち・ひと・しごと創生長期ビジョン・総合戦略」を策定しました。

今後は、平成28年度からの新たなまちづくりの指針となる第4次厚真町総合計画と併せて、厚真町の人口、経済、地域社会等の課題に一体的に取り組むため、この戦略に沿って厚真町における地方創生に向けた取り組みを進めていきます。

厚真町の人口の現状

厚真町まち・ひと・しごと創生長期ビジョンは、地方創生の実現に向けて効果的な戦略を総合的に展開するための重要な基礎として本町の人口の現状分析と将来の展望を行うものです。



目標年度は、平成72年度としています。(平成22年度を基準年に50年後)町の人口は、昭和33年の1万5,971人をピークに減少を続けています。平成25年3月に国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が公表した将来推計人口では、平成52年には3,054人まで減少する推計となっており、平成22年の国勢調査の4,890人と比較して37・5%の人口減少率となっています。

人口が減るとどうして困るの?

人口減少とそれに伴う地域の経済・産業活動の縮小が町にもたらす影響

- ①住民税などの税収が減少し、公共施設の維持管理や福祉・医療などの住民サービスの低下が想定されます。
- ②自治会や地域の公民館などの地域コミュニティの維持も困難となります。
- ③消費市場が縮小し、それにより更なる人口流出を引き起こすことが危惧されます。
- ④空き家や空き店舗の増加を招き、地域の魅力低下につながります。



長期ビジョン（人口ビジョン）

第1 長期ビジョンの位置づけ・目標年度

- 総合戦略の展開に向けた重要な基礎
- 平成72(2060)年目標
※平成22(2010)年を起点に50年後

第2 人口動向等の分析

- 昭和33(1958)年、10,597人がピーク→平成22(2010)年、4,890人まで減少
- 年少人口→急激減少、老年人口→増加
- 近年、死亡数>出生数で自然減が拡大、転入数>転出数で社会減が緩和

第3 人口の将来推計と分析

- 30年後、社人研3,054人・創成会議2,799人、50年後各2,084人、1,673人と推計
- 人口推計シミュレーションの影響度＝自然増減<社会増減

第4 人口減少が地域の将来に与える影響

- 住民生活や地域経済、財政状況・公共施設維持管理・更新等への影響

第5 人口の将来展望

- 目指すべき将来の方向
- ①しごとの創生＝みのり豊かなあつま
“元気な産業のまち”
- ②ひとの創生＝人が輝くあつま・健やかで安心なあつま
“若い世代の希望がかなえられるまち、健康長寿のまち”
- ③まちの創生＝快適に暮らせるあつま・みんなで支えるあつま
“いつまでも安心して住み続けられる確かな地域力を持つまち”
- 人口の将来展望
- ①合計特殊出生率:1.36(現在)→1.60(2020)→1.80(2030)→2.07(2040)(目標)
- ②純移動:年間30人転入者増(目標)
- ③人口の将来展望:現在4,890人(平成22年)
30年後⇒4,300人 50年後⇒3,800人

人口減少問題の克服（人口の社会増）

確かな地域力の向上（成長産業化・雇用確保）

まちの将来像

あつまる

つながる

まとまる

大いなる田園の町あつま

基本目標と基本的方向

基本目標①

みのり豊かなあつま

- ◆基本的方向（5つの方向）
「農業の振興」「林業の振興」「水産業の振興」「商工業の振興」「観光・交流のまちづくりの推進」により“**元気な産業のまち**”をめざす。
- ◆数値目標
 - 第1次産業生産額：年間58億円（50億円）
 - 商品販売額：年間38億円（32億円）
 - 新規就業者数：40人／5年間（15人）

基本目標②

人が輝くあつま・健やかで安心なあつま

- ◆基本的方向（7つの方向）
「子ども・子育て支援の充実」「学校教育の充実」「社会教育の充実」「生涯スポーツの振興」「高齢者福祉・介護の充実」「社会福祉の充実」「保健・医療の充実」により“**若い世代の希望がかなえられるまち・健康長寿のまち**”をめざす。
- ◆数値目標
 - 合計特殊出生率：1.60（1.36）
 - 厚真町学習アンケート：授業の内容が分かる児童・生徒100%
 - 健康寿命：男性64.7歳・女性66.6歳延伸

基本目標③

快適に暮らせるあつま・みんなで支えるあつま

- ◆基本的方向（7つの方向）
「都市基盤の充実」「環境保全の推進」「快適な住環境の確保と定住促進」「消防・防災の強化」「防犯・交通安全対策の強化」「住民自治の推進」「健全な行政運営の推進」により“**いつまでも安心して住み続けられる確かな地域力を持つまち**”をめざす。
- ◆数値目標
 - 住宅分譲地の販売:50区画／5年間(12区画)
 - 移住・定住人口（社会増）：150人／5年間（17人）

主な具体的施策

- 農業・林業・水産業の成長産業化
- 農業・林業・水産業の担い手育成・確保
- 経営の法人化・雇用機会の創出
- 農商工連携、6次産業化の推進
- 起業化支援の充実
- グリーン・ツーリズムを中心とした観光振興の充実
- あつまで育った子ども達が地元に戻って活躍できる環境づくり
- 地域の素材を生かした特産品開発の推進
- テレワークを活用したサテライトオフィス等地方移転可能企業の誘致や人材誘致

- “あつま版ネウボラ”による出産から子育てに至る切れ目のない支援
- 地域の異業種の若者世代が気軽に集える社交の場づくりと結婚支援
- 義務教育9年間をつなぐ小中連携と英語を活用できる児童生徒の育成
- 生涯を通じた多様な学習活動の推進
- 生涯を通じた多様な体力づくりの推進
- 厚真町地域包括ケアシステムの確立
- シルバー世代の社会参画
- ボランティア、地域住民による見守り支援
- 地域に密着した保健指導の推進

- 地域公共交通対策の充実
- 情報通信基盤の整備
- 循環型社会の構築、生活排水の適正処理、自然環境の保護・保全、自然エネルギーの有効活用
- 厚真・上厚真両市街地の活性化に向けた環境整備と土地利用構想
- 住宅の確保（子育て支援住宅の整備等）
- 空き家・空き店舗の地域内流通システムの構築
- 地域防災体制の強化、防犯・交通安全対策の推進
- 地域活動の活性化、きめ細かな情報発信
- 「PDCAサイクル」による事業の進行管理

主な重要業績評価指標（KPI）

- ▷農業粗生産額:56億円(48億円)
- ▷道営ほ場整備事業進捗率:83%(64%)
- ▷国営農業用水再編対策事業進捗率:100%(62%)
- ▷農業後継者・新規就農者数:30人※5年間
- ▷農業生産法人設立数:15法人(12法人)
- ▷ハスカップ生産量:40t以上/年(34t)
- ▷観光入込客数:17万人(15万人)
- ▷造林面積:100ha/年・維持(100ha)※5年平均
- ▷新規林業従事者数:5人(0人)※5年間
- ▷総漁獲高:1.6億円・維持(1.6億円)
- ▷新規漁業者数:1人(0人)※5年間
- ▷6次産業化事業数:2件(0件)
- ▷新規起業数:15事業所(4事業所)※5年間
- ▷U・Iターン者数:10人(0人)※5年間
- ▷特産品商品化数:5品目(0品目)※5年間
- ▷サテライトオフィス立地数:2社(0社)※5年間

- ▷合計特殊出生率:1.60(1.36)
- ▷婚姻数:12組以上/年(10組)
- ▷厚真町学習アンケート:授業の内容が分かる児童・生徒割合100%
- ▷実用英語技能検定3級以上(中3):50%以上(取組なし)
- ▷放課後子ども教室参加率:100%(89%)
- ▷生涯学習事業参加者の満足度:80%(77%)
- ▷スポーツ施設を利用した合宿者数:2,000人(1,700人)
- ▷要介護率:推計値25.3%以下(16.7%)
- ▷高齢者共同福祉住宅入居者数:10人(0人)
- ▷シルバー人材センター登録者数:70人(58人)
- ▷ボランティアセンター登録者数:200人(140人)
- ▷障がい者就労継続支援B型事業所利用者数:10人(0人)
- ▷健康寿命:男性64.7歳・女性66.6歳延伸
- ▷特定健診受診率:70%(52.6%)

- ▷循環福祉バス利用者数:5,000人(4,500人)
- ▷あつまネット加入者数:100人(82人)
- ▷ゴミの処理量:1,035t(1,140t)
- ▷水道普及率:95%(84%)
- ▷水洗化率:76%(70%)
- ▷樹林樹木保全協定面積:71ha維持(71ha)
- ▷住宅太陽光発電設備補助:30棟※5年間
- ▷住宅分譲地の販売数:50区画※5年間
- ▷子育て支援住宅入居者数:60人(28人)※5年間
- ▷空き家の活用軒数:30軒(4軒)※5年間
- ▷自主防災組織設置数:10自治会(1自治会)
- ▷交通事故死数:交通事故死ゼロのパーフェクト達成(0件)
- ▷自治会加入率:93%(88%)
- ▷公共施設延床面積:8.49万㎡未満